

# ザンビアにおける食糧安全保障体制の構築過程 —早期警戒システムと災害対応機関の歴史と現状—

松村圭一郎

京都大学大学院人間・環境学研究科

## 2008 年度の調査概要と研究成果の要約

2008 年度は、8 月～9 月にザンビアの首都ルサカおよび南部州において、①ザンビアにおける食糧安全保障体制の構築過程、②政府・国際機関・援助団体などが行う旱魃対応や食糧援助に関する資料収集、③政府と NGO による食糧援助の配付現場の現地調査を行った。

### ① ザンビアの食糧安全保障体制の構築過程に関する調査

FAO や DMMU などの行政資料によると、ザンビアでは 1980 年代初頭から、FAO やドナー諸国の支援のもとで、旱魃など自然災害への早期警戒システムの整備が進められてきた。外部からの資金提供によって、いくつもの組織が設立され、運用されてきたが、資金援助がストップすると、いずれの組織も解消されたり、十分に機能しなくなってきたことがわかってきた。

### ② 政府・国際機関・援助団体などが行う旱魃対応や食糧援助に関する調査

前年度の調査で収集した資料（2004-07）に引き続き、2007/08 シーズンにおけるシナゾングウェ地区での食糧援助実施状況（配付量・対象世帯数等）の資料を収集した。2007 年度には、政府系の援助として 3 月と 10 月に、2008 年度は 8 月から 9 月にかけて食糧援助が実施されていた。また国際 NGO である World Vision (WV) についても資料を収集し、2007 年 10 月からあらたな援助プログラム（C-FAAM）が実施されていることがわかり、対象地区と世帯数のリストを入手した。

### ③ 政府と NGO による食糧援助の配付現場の現地調査

今回の調査期間中に、政府による食糧援助が実施されていたこともあり、穀物の運搬から配付者リストの作成、配付にいたる援助食糧の一連のプロセスについて、現地調査を行った。その結果、現場レベルのさまざまな課題があきらかになり、政府のガイドラインとは異なる運用の実態もわかってきた。

## 今後の課題と調査計画

2009 年度は、これまでの調査結果をふまえながら、さらにシナゾングウェ地区における食糧援助がローカル社会にどのようなインパクトをもたらしているかを現地調査にもとづいてあきらかにする。とくに、食糧援助の配付によって、村の分裂が進んできた事態に注目し、どのような背景で村の分裂が起きているのか、そうした状況の変化が農村社会のレジリアンスといかなる関係にあるのか、注目して調査を進めたい。